堀辰雄文学記念館

所在地　長野県北佐久郡軽井沢町追分

油屋の横の家からここに移り住み、ここが終焉の地となった。ここの家で多恵さんと何回か話したことがある。堀さんにはここては会ったことがない。新築の家は堀辰雄は知らない。中仙道から奥まったところに現在、「堀辰雄文学記念館」が建っている。この記念館を建てるため、多恵さんは近くの家に引っ越して行った。そこは時間がなく訪ねたことがない。記念館は一度訪ねたことがある。記念館の写真はない。

新宅（堀辰雄は知らず）

新宅の内部→

記念館はこの入った右側にあり旧宅はその奥にある

手前の道は中仙道

後ろの山は、浦間山

堀辰雄終焉の家

この家で多恵さんと何回か話したことがあり

にはいっている

青磁

(現在この本は文学記念館)

堀辰雄山荘

所在地　長野県軽井沢町長倉 202-3 軽井沢高原文庫の敷地内(塩澤湖畔近く)

昔長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1412 にあった山荘(この山荘の庭で何度かお茶を飲んだことがある。誰とだったか思い出せない。) これが現在 高原文庫の敷地内に移転している。
堀辰雄は明治三十七年十二月二十八日、麹町平河町に堀浜之助と西村志気との間に生まれる。志気は辰雄が三歳の時、向島小梅町の妹を頼って家を出る。明治四十三年父は死亡。
志気は向島須崎町に住む彫金師、上条松吉に片付いたのは、明治四十一年、辰雄が五歳の時である。昭和十三年四月、加藤多恵子と結婚。(三十五歳) 軽井沢に新居を定める。
辰雄は昭和二十八年五月二十八日、信濃追分の自宅で死去。(四十九歳)
多恵子夫人は平成二十二年四月十六日死去。(九十六歳) 墓は多摩霊園にある。(1区1種3号 29側)

軽井沢高原文庫 ←

堀　多恵子さん（ほり・たえこ＝随筆家、小説家・故堀辰雄さんの妻、本名堀多恵〈ほり・たえ〉）16日、肺炎で死去、96歳。葬儀は20日正午から長野県軽井沢町追分51の37の日本基督教団軽井沢追分教会で。遺族代表は養女の夫菊地俊二さん。

1938年に結婚。夫の思い出をつづった「山ぼうしの咲く庭で」などの著書がある。

堀辰雄住居跡

所在地　東京都墨田区向島 1-7-6

堀　辰　雄　住居跡

所在地　墨田区向島一丁目七番六号

作家　堀辰雄は明治三十七年（一九〇四）千代田区平河町に生まれましたが、同三十九年故あって母志気と共に生家を出て向島小路に移り住みました。

同四十一年、母が条氏と再婚したため、須崎町の同家に入り四十三年、この地に住むようになりました。

ここから牛島小学校(本所高校の位置)へ通い、やがて府立三中一高、東大へと進学しています。

夫人多恵氏の「道の花」に

「向島の家はなつかしい。今は建て直してすっかり外観を異にしてしまったが、あの竹の植わっていた小さい玄関……辰雄はそんな自分の家を、「雀のお宿」と呼んでいた……」

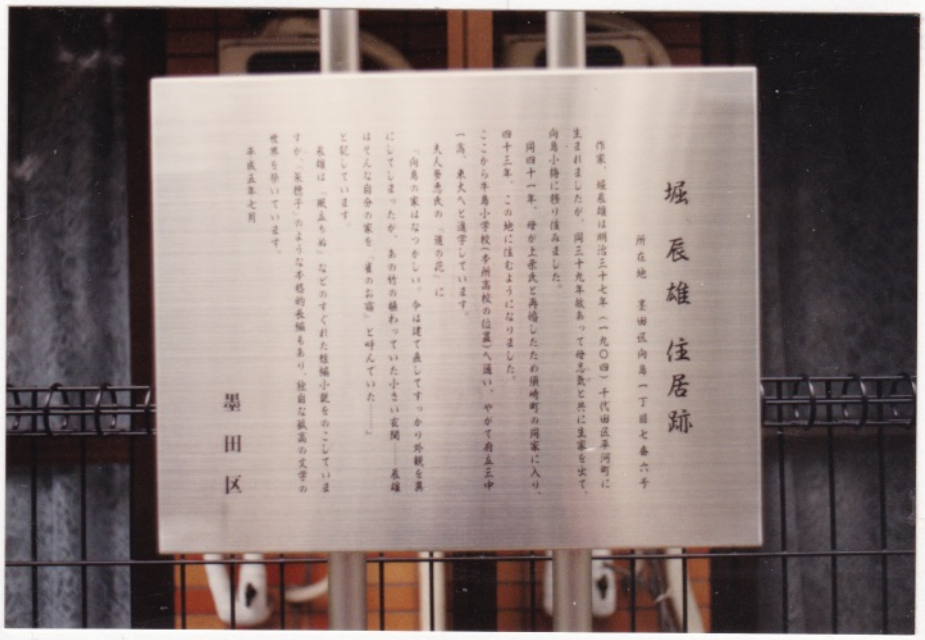
辰雄は「風立ちぬ」などのすぐれた長編小説をのこしていますが、「菜穂子」のような本格的長編もあり、独自な孤高の文学の悦界を描いています。

平成五年七月

墨　田　区

→ 終戦の家

長野行北佐久郡軽井沢町追分の家
新築の家（辰雄はこの家を知らない）


堀辰雄住居跡
所在地　墨田区向島一丁目七番六号
作家、堀辰雄は明治三十七年（一九〇四）千代田区平河町に生まれましたが、同三十九年秋あって母志気と共に生家を出て、向島小梅に移り住みました。
同四十一年、母が上京武と再婚したため須崎町の岡家に入り、四十三年、この地に住むようになりました。
ここから牛島小学校（多聞高校の位置）へ通い、やがて府立三中（高、東大へと進学しています。
夫人多恵氏の「道の花」に
「向島の家はなつかしい。今は建て直してすっかり外観を異にしてしまったが、あの竹の編まっていた小さい玄関――辰雄はそんな自分の家を『道のお宿』と呼んでいた……」
と記しています。
辰雄は「風立ちぬ」などのすぐれた短編小説をのこしていますが、『美恵子』のような多感的長編もあり、独自な孤高の文学の世界を築いています。
平成五年七月
墨田区

隅田会館

堀辰雄墓　　堀多恵墓

裏面共に文字なし

多磨霊園 (12区1種3号29側)